

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域産業の担い手であると同時にグローバル社会にも対応できる人材を育成する教育活動を展開し、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

1. 基本的な生活習慣やルール・マナーなどの規範意識を身につけた自律できる生徒を育成する。
2. ものづくり教育・工業教育の基盤ともいえる基礎学力をしっかりと身につけた生徒を育成する。
3. 生徒のモチベーションを高め、教職員の技量の高位平準化を図り、ものづくり教育の充実を図る。
4. 社会人・職業人として自立し、豊かな心と人権感覚をもった、社会ひいては世界に貢献する多様な人材を育成する。

2 中期的目標

1 豊かな人間性・社会性の醸成

(1) 人権感覚豊かな心、社会の秩序・ルールを確実に守る規範意識の醸成

ア あいさつの励行や遅刻をしないなどの基本的な生活習慣を身につけた生徒の育成に努める。

※9年前の平成18年度には7000を超えていた遅刻数は、平成26年度には562と大幅に減少した。今後も、より組織的な対応により600以下を維持する。

(2) 美化・清掃活動の強化を通して、個々の生徒の規範意識の醸成と情緒の安定を図る。

ア 美化・清掃活動に全校で取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断の「校内美化」に関する項目における満足度（平成26年度62%）を毎年1%引き上げ、平成29年度には65%にする。

(3) グローバル人材の育成

ア ものづくりニッポンを海外に発信する素地を作るため、海外の高校生との交流を図り、グローバル感覚を醸成する。

※海外の複数の高校との交流を推し進める。

2 確かな学力への取り組みと進路保障

(1) 基礎学力の定着を図り、進学希望も含めた様々な進路のニーズに応えるため、「分かる授業・充実した授業」をめざして授業改善に取り組む。

ア 学校設定科目「基礎教養」を設定し基礎学力の充実を図るとともに、授業公開や授業アンケートを通していっそうの授業改善に努める。

※「基礎力診断テスト」における最下位層の人数を減少させる。

※生徒向け学校教育自己診断の「学力の向上」に関する項目における肯定度（平成26年度79%）を平成29年度までに80%以上にする。

※生徒向け学校教育自己診断の「授業の工夫」に関する項目における肯定度（平成26年度66%）を毎年引き上げ、平成29年度には70%にする。

※確かな学力の一層の定着を図り、就職一次内定率（平成26年度75%）を平成29年度には80%以上にする。また、3年後の離職率（平成26年度17%[判明分]）をH29年度には12%以下にする。

3 ものづくり・地域連携等を通じたキャリア教育の充実

(1) ものづくりのための実践的な技術力の向上に取り組む。

ア 企業が求める資格の調査・精査と資格取得奨励。講習充実

※資格取得率及び取得に対する積極度向上を図る。検定試験の受験者数（平成26年度1220人）及び合格率（平成26年度73%）を維持する。

(2) ものづくり教育を充実させることで生徒のモチベーションを高め、各種連携を通じてものづくりへの関心とものづくりニッポンの担い手としての自覚をもつ生徒を育てる。

ア 成果発表の場やさまざまな競技会などに積極的に生徒を参加させるなど、ものづくり教育の充実を図ることで生徒のモチベーションの高揚に努める。また、特色ある工科高校の施設・設備や人材の活用を図り、「ものづくり教室」や「出前授業」を小・中学校や行政機関と連携して実施することにより、ものづくりに興味・関心をもつ児童・生徒を育てる。

※成果発表の場やさまざまな競技会などへの参加回数及び「ものづくり教室」や「出前授業」の実施回数の合計（平成26年度12回）を維持する。

(3) 地域産業連携重点型校として様々な活動を通して、地域への貢献と地域に根ざした学校づくりをめざすとともに、ものづくりを通して保護者との連携を強める。

ア 地域や地元企業の協力のもと、さまざまな活動を推進することにより、地域貢献に努めるとともに地域に根ざした学校づくりをめざす。

※地元企業の協力を得て、一つの学年の生徒全員が参加するインターンシップに取り組む。

※地元企業との連携と地域へのさらなる情報発信をめざして設立した「城エッセ」をさらに推進する。

イ 保護者－学校が一体となった学校づくりを行う。

※保護者のものづくり教育への理解を深めるために、本校PTAと連携した事業に取り組む。

ウ 地元を中心とした中学生に対し、本校の教育活動について理解浸透を図る。

※組織的広報活動を通じ情報提供を充実させる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年12月末実施分]	学校協議会からの意見
<p>○学校生活への満足度関連項目 「城工へ行くのが楽しい」 肯定的回答 生徒75% 保護者85% 「城工に入学した理由」 生徒、保護者とも「就職に有利」が圧倒的 ⇒昨年に引き続き、生徒、保護者とも満足度は高い。安定的な進路保証が強みとなっており、入学生の確保にはより具体的なキャリアモデルの情報発信が有効ではないかと考える。</p> <p>○保護者回答より（肯定的回答） 「城工の授業参観や学校行事に参加したことがありますか。」58% 「城工の授業参観や学校行事に今後機会があれば、参加したいと思われませんか。」79% 「城工は教育情報について、提供の努力をしていますか。」60% 「城工はご家庭と学校の連携がしっかりしていると思われませんか。」61% 「先生は子どもの悩みや相談事を聞いてくれていると思いますか。」56% (生徒の肯定的回答は79%) ⇒20%程度保護者が、学校への関心は高いが、授業参観や学校行事に参加できていない状況にある。そのような中、学校と保護者の連携・情報共有に肯定的な回答が60%程度となっている。 学校の様子や生徒の状況等が十分に伝わるよう、保護者との連携・情報共有の改善がさらに必要であると考え。</p>	<p>第1回（平成28年6月2日） ・学校経営計画について、一定の目標達成には至っているが、現在の学校の状況を踏まえたKPIの設定なども含め、新たな目標設定の必要性を指摘。 ・新たな入試制度での学校の在り方について議論が必要との指摘。 ・社会人基礎力向上のための取組みの必要性を指摘。 ・入学時の系専科の希望から、入学後に系専科の希望が変化するような魅力ある各系の取組みを期待。</p> <p>第2回（平成28年10月5日） ・学校経営計画について、役割分担・責任の所在を明確にしたアクションプランが必要。 ・学校教育自己診断アンケートについて、否定的な意見を吸い上げ改善につなげるようになっている。教員向けアンケートは教職員が主体者という意識を持つように改善してもらいたい。</p> <p>第3回（平成29年2月1日） ・自己診断アンケートについて、意図が伝わりやすい文言にすることが必要ではないか。 ・インターンシップが“企業見学会”にならないような工夫がさらに必要との指摘 ・修学旅行においては、生徒を巻き込んだ企画の検討がさらに必要との指摘。 ・広報において、企業も招いた中学校説明会の実施を検討していることについては、中学生に自分の将来像をイメージさせる意味で意義がある。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 豊かな人間性・社会性の醸成	<p>(1) 人権感覚豊かな心の育成。社会の秩序・ルールを守る規範意識の醸成</p> <p>ア・人間形成の一助として部活動にもさらに力点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権ホームルームの充実 ・読書活動の推進 ・遅刻指導の徹底推進 ・挨拶の励行 <p>(2) 美化・清掃活動を通し安定した情緒醸成</p> <p>ア 全校的な美化・清掃活動</p> <p>(3) グローバル教育の充実により学校特色化推進</p> <p>ア 海外高校との積極的交流</p>	<p>(1)</p> <p>ア・校長講話、生徒会集会、部活動部員からの勧誘等で部活動加入を奨励</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3ヵ年を見通した人権ホームルーム計画の策定・実施 ・「図書部」を活用した、生徒への啓蒙活動活性化で生徒読書量の増加 ・遅刻の撲滅をめざし、生活指導部と学年等連携による早朝登校指導推進 ・生徒会、部活動部員等生徒を主体とした「あいさつ運動」の実施 <p>(2)</p> <p>ア 保健部、学年、生徒会等の連携で美化・清掃活動推進</p> <p>(3)</p> <p>ア 海外高校生受入れ。海外研修実施。海外へのスタディツアーの要素も入れた修学旅行を検討</p>	<p>(1)</p> <p>ア・部活動加入率 72%(H27 67%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断に「人権教育の充実」について問う項目を追加。肯定的回答 60% ・年間図書館来館者数、貸し出し冊数の増加(例年 30 冊未満、1000 人未満) ・総遅刻数 600 以下を維持(H27 549) ・生徒向け学校教育自己診断「あいさつ」肯定的回答 49%(H27 47%) <p>(2)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断「校内美化」満足度 64%(H27 62%)</p> <p>(3)</p> <p>ア 受入れ校数維持(H27 4校)。生徒の海外研修参加数 10 人。H28 年度 1 年生の海外修学旅行実施の有無</p>	<p>(1)</p> <p>ア・部活動加入率 64.6%(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断「人権教育の充実」に関する項目。肯定的回答 71%(◎) ・図書館の来館者数 1,450 人、貸し出し冊数 192 冊(◎) ・遅刻総数 515(◎) ・生徒向け学校教育自己診断「あいさつ」肯定的回答 45%(○) *学校教育自己診断では、「入学してから改善するようになったこと」という聞き方のため、入学以前から「あいさつ」を意識している生徒の数も考慮した。 <p>(2)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断「校内美化」満足度 56%(△)</p> <p>(3)</p> <p>ア 受入れ校数 3 校(年度末までに 1 校を予定)</p> <p>生徒の海外研修参加数 10 人 + 卒業生 2 人</p> <p>*OB の協力を得て地域企業の海外工場の見学を実施</p> <p>H28 年度 1 年生の海外修学旅行実施決定(台湾)(◎)</p>
2 確かな学力への取り組みと進路保障	<p>(1) 様々な進路のニーズに応えるため、「分かる授業・充実した授業」をめざした授業改善等への取り組み</p> <p>ア・基礎学力の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業力向上 ・初任者教員の指導体制強化で教員全体の力量の高位平準化 	<p>(1)</p> <p>ア・学校設定科目「基礎教養」の内容検証、関係教科主導による教材開発、授業形態工夫等でシラバス充実。英検講習への参加、進学予定者、就職希望者に対するの補・講習を促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職指導で各クラスへの担当教員配置による責任所在の明確化。加えて面接指導で進路部と学年の連携強化 ・学年 HR 係と進路部との連携強化により望ましい勤労観・職業観を身につける HR 活動を充実 ・教員相互の授業見学、研究協議を授業改善へ反映 ・初任者フォローアップミーティング実施(初任者、管理職、指導教諭、首席等で構成。課題に沿ったレポートをもとに討論等) 	<p>(1)</p> <p>ア・「基礎力診断テスト」最下位層の人数の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断「学力の向上」肯定的回答 80%(平成 27 年度 79%) ・就職一次内定率維持(H27 86.7%) ・進学予定者への補・講習の実施率 55%(平成 26 年度 50%) ・英検講習参加者 8 人。受験者 7 人(H27 参加 5。受験 4) ・生徒向け学校教育自己診断「授業の工夫」肯定的回答 69%(平成 26 年度 68%) ・初任者ミーティング年 5 回。初任者提出レポート内容。授業アンケート結果等 	<p>(1)</p> <p>ア・「基礎力診断テスト」最下位層の人数の減少</p> <p>H27 2 年(105)→H28 3 年(98)</p> <p>H27 1 年(105)→H28 2 年(76)</p> <p>(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断「学力の向上」肯定的回答 77%(△) ・就職一次内定率 84% *離職企業へのチャレンジの結果。9 月末 90%、12 月末 100% <p>(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学予定者への補・講習の実施率は 80%(◎) ・英検講習参加者 5 人。全員受験。受験者一人外大合格(△) ・生徒向け学校教育自己診断「授業の工夫」肯定的回答 61%(△) ・初任者ミーティング年 5 回 *2 月に 5 回目と総括発表会を実施予定。(○)
3 ものづくり・地域連携等を通じたキャリア教育の充実	<p>(1) ものづくり実践的技術力向上</p> <p>ア 資格取得推奨と講習充実</p> <p>(2) ものづくりへのモチベーション向上と日本のものづくりを担うことへの誇り・自覚・責任感の醸成</p> <p>ア・成果発表、出展等の機会を充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の一環としての海外研修 ・インターンシップのあり方再検討 <p>(3) ものづくりを通じた地域貢献・連携等で地域に根ざした学校づくり推進</p> <p>ア 地元企業との連携等で学校情報発信強化</p> <p>イ 保護者のものづくり教育への理解促進等で保護者・学校連携を強化</p> <p>ウ 組織的広報活動を通じ、中学生・保護者への情報提供を充実させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 企業の求める資格の調査・精査と生徒への取得推奨。講習充実</p> <p>(2)</p> <p>ア・本校施設・設備、生徒による校内企業「城工房」等学校のインフラ活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾研修旅行実施。H28 年度 1 年生海外修学旅行検討。 ・インターンシップ検討 WG の立ち上げ(担当指導教諭、進路担当教員で構成)で、学校全体としてより効果的なインターンシップ実施方法(内容・時期等)を確立 <p>(3)</p> <p>ア 企画委員会等で、城工メッセ、生徒会それぞれの担当教員、地元自治会代表等との連携強化による「城工メッセ」活性化。「城工房」その他で製作活動(焼芋器等)</p> <p>イ 保護者のものづくり教育への理解深化のため生徒の製作物(焼芋器等)を PTA 行事等で活用。保護者対象実習体験の引き続き実施。保護者への情報提供を工夫</p> <p>ウ 広報部門を強化するため、総務部内に専門学科の教員を広報担当として配置</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒向け自己診断「資格取得」積極度 35%(H27 34%)。資格試験受験者数、資格取得者数 1150 人(H27 1056 人)。合格率 75%(H27 71%)</p> <p>(2)</p> <p>ア・「城工房」その他による成果発表の場、産業教育フェア、種々競技会、地域イベント等への参加・実施・出展回数 15 回(H27 13 回)。</p> <p>生徒向け自己診断「専門科目への取組」肯定度 68%(H27 66%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾研修旅行で「日系企業訪問」「現地工業高校との交流」「世界の日本の技術の体感」実現 ・今後数年を見据えたインターンシップ計画作成の有無、学校協議会評価 <p>(3)</p> <p>ア 「城工メッセ」来場者数 150 人目標(H27 120 人)。企画委員からの地域貢献に寄与した旨の評価</p> <p>イ PTA と連携した事業の実施状況。PTA 役員の評価。全学年でメールリスト作成</p> <p>ウ 訪問中学校数維持(H26 90 校→H27 109 校)。教育産業への訪問強化</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒向け自己診断「資格取得」35% 資格試験受験者数 1070 人、合格率 71.6%(○) *資格取得者、合格率とも昨年度を上回っている。</p> <p>(2)</p> <p>ア・「城工房」その他による成果発表の場、産業教育フェア、種々競技会、地域イベント等への参加・実施・出展回数 14 回(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> *定期的にはおもちゃの修理月 1 回、子育て支援センターとの連携事業「おでかけ赤ちゃんタイム」を月 1 回実施 ・生徒向け自己診断「専門科目への取組」肯定度 66%(○) ・台湾研修旅行 12/19~12/21 実施 *日系企業訪問、現地工業高校との交流、世界の日本の技術の体感(台北 101)を実現(◎) ・今年度までは学校設定教科(チャレンジタイム)で担当者がインターンシップを計画・実施。次年度からは進路指導部と連携した体制での実施を計画。(◎) <p>(3)</p> <p>ア 「城工メッセ」来場者数 278 人(◎)</p> <p>イ 文化祭、体育祭等、PTA と連携した事業を実施。保護者ものづくり教室参加者 20 人。広報活動にも保護者協力。(○)</p> <p>ウ 訪問中学校数 162 校、外部説明会 19 回、教育産業への訪問実施(校長・教頭で 10 件)(◎)</p>